

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・20日以前は中心的商品のおにぎり、弁当、すしなどの売上が伸び悩んでいたが、20日過ぎから回復した。酒類の売上は前年を上回っている。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・中旬までは冷え切った状態であったが、その後に団体の予約などで動きが出たため、最終的には前年並みで、3か月前より良かった。客の様子を見ると、業種による格差がますます広がり、来客の層が狭まっている。
	変わらない	スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・天候不順により、売上が上下している。特にレジャー関連は長梅雨のため売れず、これに代わる商品も見当たらない。
		コンビニ（経営 者）	お客様の様子	・週末の天候が悪く、行楽需要が大変厳しかったものの、近くのスポーツ施設において夏休みのイベントが多かったため、天候のマイナスを補った形となった。 ・「格差社会」といわれるが、コーヒー系飲料の例を見ると、安いパック商品と高級チルド系飲料が売れ、中間の缶コーヒーが売れないなど、二極化している。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・エアコンを始め、冷蔵庫、洗濯機などの売上は前年同月を大きく下回り、全体では前年比約9割になった。逆に映像関連は好調で、テレビは前年比2けた以上の増加となり、DVDもリコールによる買い換え特需もあって大きく伸ばした。全体的にはほぼ前年並みである。
		乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・当社の新型セガンの受注は堅調に推移しているが、取扱車の受注総量では前年並みである。また、ショールームへの来客数は今一歩で、盛り上がりには欠けている。
		乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・参議院選挙のため、営業に集中できなかった。整備や点検での入庫はあるものの、新車販売にはなかなか結びつかない状況である。
		自動車備品販売 店（従業員）	販売量の動き	・タイヤの購入時でも、客は少しでも安価な商品を要望する。車の乗換えを検討している客からも、今すぐには買えないという声が多い。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・稼ぎ時の新盆の時期に台風による大雨や中越沖地震の影響による団体旅行のキャンセルがあった。また参議院選挙のため、地元企業による会合や宴席が例年より少なく、苦戦を強いられている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・能登半島地震に続く中越沖地震、ガソリンの値上げ、危険な中国産食品など、明るい話題が見られず、消費が上向く環境にない。前年を下回る傾向が続いている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・中越沖地震や参議院選挙のマスコミ関係のタクシー利用が多かった。しかし、他の観光面や夜間の利用が振るわなかったため、差し引きではゼロである。
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・夏のボーナス支給により、6～7月は大型デジタルテレビを購入する世帯が増えているとのマスコミ報道があるが、ケーブルテレビ契約の大幅増には結び付いていない。
		その他レジャー 施設（職員）	来客数の動き	・夏休みに突入したが、夏らしい天気にならないため、客足が非常に悪い。暑い夏にならないと飲食の販売が伸びない。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・同業者との競争が激しく、客を呼び込むためにディスカウント等をして来客数は増えず、悪循環となっている。
住宅販売会社 （従業員）		販売量の動き	・中越沖地震の惨状がテレビで放映されるため、住宅建築を検討中の客の決断が先送りとなるケースが見られ、各社とも販売に苦戦している。	
住宅販売会社 （総務担当）	お客様の様子	・高額物件の動きが悪い。可処分所得が低下しているため、低額物件が中心となっているが、それでも客は慎重姿勢である。		

やや悪くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏季休暇を利用した家族旅行やアウトドア志向の商品が動く時期であるが、ボーナス支給後でありながら、年金・税金問題などの影響から、客の消費マインドが冷えている。夏商材や行楽関連の動きが非常に悪いことが全体の消費を落としている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・冷夏や天候不順の影響のほか、近接する同業店との競合激化で苦戦している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・梅雨明けの遅れもあり、祭り関連や土用の丑のウナギなどの商品の買上頻度や数量が、前年に比べ相当落ち込んでいる。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・集客のためのチラシに掲載される商品価格が更に低下している。週末だけでなく、平日においても、各社の価格競争が激化している。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・セールを6月に前倒しせざるを得なかったため、7月の売上でその分が減少した。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・客のついで買いがあまり見られず、買上点数が減少している。目的買いの場合も、商品が壊れたから買うという傾向があり、必需品だけが売れ、趣味・嗜好品は売れていない。
	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・富裕層をターゲットにした高級車はこれまで景気にあまり左右されずに堅調な動きをしてきたが、その動きにもやや陰りが見える。サイズダウンやランクダウンの引き合いに移行する商談が多くなっている。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・中元商戦は年々悪化している。今年も会社関係からの注文はあったが、個人の客からは大幅に減少している。
	その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は前年の98.4%と1年ぶりに下回った。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前年同月に比べ、レストラン・宴会利用客、宿泊客が大きく落ち込んでいる。宿泊客については能登半島地震の影響がまだ続いている。レストラン利用客は住民税増額の影響があるのか、前年比で10%以上落ち込んでいる。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・参議院選挙により旅行が控えられ、さらに中越沖地震が大きかったため、一服感が出ている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・夏期商品の出だしは海外を始め国内の長距離旅行を中心に好調であったが、その後、伸びが鈍化している。相次ぐ地震、梅雨明けの遅れ、参議院選挙などの要因に加え、住民税の増額、ガソリンの支出増の影響もある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・各社でボーナスが支給されたが、客は必要なもの以外には使わない。また、選挙期間中は夜の出はいつもより2割程度少なく、厳しい状況であった。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・能登半島地震に続く中越沖地震によって、客の不安感が加速し、展示場への客足が遠のいている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・この夏はボーナス支給が見送られたケースも多く、景気のどん底感が否めない。ここへ来てガソリンの値上げもあり、「出かけない、買物しない」のパターンが定着してしまいそうだ。
	スーパー（店長）	単価の動き	・住民税の増額、原材料の高騰による値上げ、ガソリン価格の高騰などから、客は生活防衛に入っている。
	住関連専門店（店長）	単価の動き	・不安定な社会情勢の影響が、客単価が下がっている。特に新築時などに見られるまとめ買いが少なくなっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会、レストランなどすべての部門において、前年及び前月の売上に比べ大幅にダウンしている。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の新機種が発売されているが、興味を持つ人が少ない。ボーナスが支給されたにもかかわらず、来店客が少なかった。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3月の能登半島地震の風評被害の影響を受け、特に団体客の動きが鈍く、来客数は前年比2けたの減少となった。また、中越沖地震の影響からキャンセルが出ている。
企業動向	良くなっている	-	-

関連	やや良くなっている	税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・最近の中小企業の決算では、前期比で増収の会社が多く見受けられる。販売価格の面はともかく、仕事量が徐々に増加しているという声も聞かれる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は勢いがいいものの、数量、単価ともなんとか維持できている。原料、燃料の値上げが相変わらず続いており、コストアップにつながっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・企画商品の秋冬物の生産に入ったが、例年並みの稼働状況である。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・携帯電話やパソコンなど、一部で数量が増加しているが、液晶テレビは今一つぱっとせず、全体的には変わらない。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春先に比べ眼鏡の受注量自体は増加しているが、収益的には変化がない。受注量を前年と比較すると、ほぼ同水準で推移している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・建設業の経営環境の悪化が続いている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・原料費、包装資材費、燃料費、物流費と軒並みに価格が上がっているなかで、当社の販売商材の価格帯はデフレ時からほとんど変化がない。価格の改定も流通からの厳しい意見で実現できず、収益の悪化がますます大きくなっている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・従来は受注ロットがなかなか増大しないという問題があったが、今はそれどころか絶対量が減少している。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・燃料費などの高騰によるコスト増から、収益がなかなか確保できなくなっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先で倒産や融資の延滞が見られる。
司法書士		取引先の様子	・古い会社の民事再生の申立てや、債務整理のための資産売却の話が多い。	
悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・官庁工事の減少が続くなか、入札見積価格競争はますますエスカレートしている。一方で、資材コストの上昇が加わり、採算を確保しての受注は厳しさを増している。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・高度の専門技術者の需要は増えているが、人材供給の対応がなかなか厳しい。OA事務部門の求人はやや少なくなっている。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣から正社員への移行を始め、時給の引上げ、条件の良い先への転職など、スタッフからの希望が目につくようになってきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告では、依然として人材派遣系の比率が大きい。雇用形態の変化が地方でも定着しつつある一方で、看護師や薬剤師などの医療関連業種では慢性的に人手不足となり、求人件数は増えている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年実績を上回っている。中でも情報関連会社からの求人が多い。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・4月に比べて、情報誌1回の発行につき100件程度の求人件数が落ちている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介、派遣とも、受注数が減少しており、弱含みである。
悪くなっている	-	-	-	-